周南市 水素・木質バイオマスによる脱炭素・低炭素コンビナート構想（案）

資料４

次期・周南市水素利活用構想・計画（案）

（国）水素燃料電池ロードマップ(2019)

○水素製造、輸送・貯蔵の本格化
- 海外での未利用ｴﾈ由来水素の製造等(2030年～)
- 国内外でのCO2フリー水素の製造等(2040年～)

○水素発電
- 既存設備での混焼発電
- 専焼技術確立(2030年～)

○地域における水素輸送
- ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ輸送(2030年～)

○水素ｽﾃｰｼｮﾝ整備
- 2025年 320箇所
- 2030年 900箇所

○定置用燃料電池の自立的普及
- 家庭用　2020年～
- 産業用　2020年代後半～

○燃料電池自動車の普及
- 2025年 20万台
- 2030年 80万台

○燃料電池バスの普及
- 2030年 1,200台

（国）林業・木質バイオマス発電の成長産業化に向けた研究会(2020)

○バイオマスのコスト低減
- 燃料用途の森(ｴﾈﾙｷﾞｰの森)を目指した早生樹育成によりｺｽﾄ削減、短期間出荷が期待
- 早生樹の商業利用化による林業と発電事業の持続可能な共生構築も期待

※CO2を回収,貯留,利用する技術